エゾユキウサギ

Lepus timidus ainu

ウサギ科

エゾユキウサギ。左上は足跡、右上は糞

名前の由来

北海道に生息するユキウサギである事から。ユキは冬に雪のように白くなることからか？ ウサギは古くは「う」と呼んだ様であるが、意味は不明。漢字名：蝦夷雪兎

形態的特徴

頭胴長50～58cm、尾長５～８cm、体重1.6～2.9kg、耳長７～８cm、後足長16～17cm。夏毛は腹や尾、四肢の一部が白い他は灰褐色で、耳の先端は黒い。冬毛は耳の先端が黒い以外は全身白色。

類似種：なし。

右後足

生息環境・分布

森林、草原など様々な環境に生息。

分布：エゾユキウサギはユキウサギの亜種※。国外では、ユキウサギがユーラシア北部、サハリンなどに広く分布する。

国内では、北海道、国後、択捉に分布。本州のニホンノウサギは別種。北海道内では、全域に分布。

十勝地方では、低地の草地から亜高山まで広く分布する。

※ 亜種：同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの

食性・他生物との関わり

植物の葉、芽、枝、樹皮などを食べる。

天敵はタカ・フクロウ類、キタキツネ、エゾクロテンなど。

左後足

繁殖生態・寿命

早春から秋まで連続して１～３回の出産を繰り返す。妊娠期間は45～52日。一度に１～４（ふつう２～３）仔を産む。

寿命は、野外では１年あまり。

（ニホンノウサギは８～10ヶ月で性成熟する）

興味深い話

■1973年には４万頭捕獲されていたが、1993年には50分の１と減少している。

■エゾユキウサギはユキウサギの亜種。ユキウサギはユーラシア北部、サハリンなどに広く分布する。本州のノウサギとは別種。

■大きな脚（特に後ろ足）のおかげで、新雪にも潜らず活動できる。主に夜行性であるので、あまり目に付くことはないが、冬期には雪原についた足跡を見る事は多い。大きな後ろ脚の方が前足より前に付く。自分の足跡を辿って後ろに戻り、少し離れた木の根元に飛び込んだり、とめ足と呼ばれる行動をする。

■地中に穴を掘る習性は無いので、昼間は木の根元などに隠れてじっとしている事が多い。特に冬期は体色が保護色となり、ほとんど気づかない事が多い。かなり近づくまで息を殺してじっと隠れていて、すぐ近くから急に飛び出して逃げるので驚くことがある。ウサギが走る速さは最高時速80kmにもなる。

■近年、ウサギの生息数は減っていると言われている。キツネの数と関係があるのか、環境変化の為なのかは不明であるが、ウサギの減少はウサギを餌としている猛禽類にも影響を与える。

■十勝地方のアイヌ語では「イソポ」と呼ばれる。

配慮事項

森林などの他、草原や牧草地など開けた環境も好むが、身を隠す樹林なども必要。

右前足

生活サイクル

	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
出現期	━	━	━	━	━	━	━	━	━	━	━	━
交尾期		━	━	━	━	━	━					
出産期				━	━	━	━	━				

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明　東海大学出版会　1994

「北海道　森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編　北海道新聞社　1997

「動物名の由来」中村浩　東京書籍　1981

「日本動物大百科１　哺乳類Ⅰ」日高敏隆 監修　平凡社　1996

「フィールドガイド 足跡図鑑」子安和弘　日経サイエンス社　1993

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館（編）、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会　2004

左前足